☆ボランティア活動　～あなたの余暇を社会のために～

▲「わかぎ会」とろうあ者の皆さんの懇談（熊本市の喫茶店で）

▶手話講習会

手話講習会に参加を！

県ろうあ者協会による手話講習会が毎週月、木曜日の二回、県福祉会館で午後五時半から行われております。

当事業は手訳通訳者の養成を目的とするものですが、同時に、ろうあ者に対する正しい理解と認識を深めていただくためのものです。

現在、当講習会受講終了者四十五名で構成する、熊本県手話サークル「わかぎ会」（村本宗和会長）があります。

当会はろうあ者の対外的交渉、各種会合、自動車運転免許に関する適正検査、身障者スポーツ大会、手話講習会での通訳を主な活動としておりますが、週一回の例会を利用しては、ろう問題、ろう教育問題、手話通訳者のあり方など、ろうあ者の方々と共に懇談したり、ゲームをしたりして、お互いの親睦を深めています。

詳細お知りになりたい方は村本会長（ＴＥＬ〇九六三―五三―五八一八）までご連絡ください。

ボランティア活動とは

あなたの持っている知的、技術的なことや労力（時間と能力）を進んで社会のために役立てることによって、自らを高める勉強と実践活動です。

明日の熊本　私の提言

流動的社会における地域連帯

丸山定巳

農業県として比較的停滞的であった熊本も最近は経済基盤をはじめとして変化がかなり激しくなってきた。その結果、従来の地域社会の統合、連帯も流動的になりほとんどの場合衰退してきている。もともと都市部では、その地域的範囲が大きいため、また住民の異質性や移動性が高くしかも職住分離を基軸として生活の構造も分離していることなどのために住民の連帯は弱かった。ところがそれに加えて、近年では村落社会でも、人口流出や兼業化などによる住民層の分化が進行し生活圏の拡大も相俟って、村人が生活を共にする機会が著しく減少し、それを媒介として自然発生的に発達していた相互の連帯感が希薄になりつつある。

従来、伝統的な村落社会では、生産活動から冠婚葬祭その他日常生活のすみずみまで地縁にもとづく共同の営みがみられ高度の連帯が維持されていた。貧弱な生産、生活基盤のもとでは、住民の相互援助なしでは生きてゆくことさえ困難であったからでもあるが、こうしてそれなりに精神的拠り所を得た生活があったといえよう。ところが現在、このような地域社会の統合性や住民の連帯が急激に衰退しているのである。そのため、人々は単に精神的に不安定になったばかりでなく、日常生活の面でもさまざまな困難に直面するにいたった。地域の諸々の問題現象、たとえば都市における各種の生活環境の悪化や犯罪、非行の増加、過疎地域での教育、医療あるいは防災体制の不備、共同労働や共有施設を維持してゆくための地域組織の解体等々のために生活困難が増大した。これらの問題は、個人の力だけではとうてい対処できるものではなく、住民相互の信頼と協力によってはじめて解決の可能性が出てくると思われるが、その態勢が衰えてきているもとでは事態はますます悪化するばかりである。とりわけ、低所得者や老人をはじめいわゆる弱者にとっては、このような共通の生活困難に加えて、従来公的援助の及ばない部分を物心両面にわたって補ってきた地域住民の連帯にも、もはや依存できなくなるわけだからその影響は深刻である。

ところが、このような現状にありながらも、住民のなかから意識的に失われた連帯を回復しようとする気運は全体としてはそれほど盛り上ってきていない。先に述べたような住民相互の現在の生活条件が障害になっていることは言うまでもないが、原因はそれだけではなさそうである。伝統的な社会にあっては、地縁は血縁とともに人々の結びつきの基本的な軸となっていた。これらの縁のなかで暮すことで、それなりの生活の安定が保障されていた。ところが、これにはそれとも、住民の生活を規制、拘束するといった機能が一体となっており、ともするとこれが前面に出てくることがあった。安定はあっても自由がないと受けとられる状況もみられたのである。その結果個人としての主体性を確立しつつある現代人にとって、そのような地縁的結合が否定的にとらえられていることにもよると思われる。規制や拘束への反撥から、むしろ意識的に地縁的絆から脱出しようとする志向さえみられる。さらに、都市住民のなかには、一切の地縁的なものを否定しようとする意識さえ見受けられるのである。こうして代表的な地域組織である部落会や町内会も一般にその機能を著しく低下させるにいたった。地縁や血縁にわずらわされぬ生活の気楽さを求めて大都市に流出する若者は後を絶たない。人々は、一面に不安を抱きながら、拠り所を家郷からマイ・ホームやその他の所属集団に代えて拘束からの解放による自由を享受しているようにもみえる。

しかしながら、今日でもわれわれの生活は地域社会を離れては存在し得ない。しかも、その地域を媒介として共通に直面している問題が山積している現状では、それの解決といった実践的目的からもやはり一定の地域的連帯は要請されているといえよう。その際伝統的な連帯がそのまゝでは現代に適合しないとすれば、それにかわる新しい地域的な絆が求められなければならないが、それはまずなによりも、住民の自発性に基づいて形成されるものとなろう。また伝統的な連帯の単位であった「家」に代って、住民一人一人が主体として位置づけられるものとなるだろう。それは、個々人の自由意志を尊重し生命の躍動を保障しながら追求してゆく連帯である。

現在のように流動的な社会状況のもとでそれを求めることはたしかに容易ではなかろう。しかし、そうであればこそ、地域の連帯がより一層必要とされてきているともいえる。停滞的な社会では、放置していても自然発生的に高度の連帯が形成されやすい流動的な地域社会にあっては、閉鎖的で固定的な関係はもともと維持できないから、これから求められる連帯は、外に対して開かれたダイナミックなものとなるであろう。社会構造の分化が著しく多様な価値観をもつ住民のなかで、自由と連帯を維持してゆくためには非常な努力がなされなければならないだろうが、そのような営為への結集こそ、新しい地域的連帯への契機ともなるのではなかろうか。

（熊大法文学部助教授）